

葉たまねぎ

農薬取締法上「葉たまねぎ」と「たまねぎ」は別の作物。「葉たまねぎ」は「たまねぎの比較的若い段階（鱗茎が太り始める頃）の葉及び鱗茎」を収穫するもの。



べと病

留意事項

- 1 QoI剤(11)は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 排水を良くする。
- 2 苗床の被害株を除去する。
- 3 越年り病株は早めに除去する。
- 4 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 5 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ランマンフロアブル](#) (21) 【2,000倍 3日/4回】
 - ・ [Zボルドー](#) (M1) 【野菜類（除キャベツ） 500倍 -/-】
 - ・ [クプロシールド](#) (M1) 【野菜類 1,000~2,000倍 -/-】
- 6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) (11) 【2,000倍 3日/3回】

灰色かび病

留意事項

- 1 病原菌の発育適温は気温23℃前後である。
- 2 インプレッションクリアは、発病前～発病初期に7～10日間隔で数回散布する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

- 1 排水を良くする。
- 2 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 3 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [オーソサイド水和剤80](#) M 4 【600倍 7日／5回】
 - ・ [インプレッションクリア](#) BM 2
 【野菜類 1,000～2,000倍 発病前～発病初期／—】
 - ・ [カリグリーン](#) NC 【野菜類(除トマト、ミニトマト) 800倍 前日／—】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ロブラール水和剤](#) 2 【1,000倍 14日／2回】

灰色腐敗病

留意事項

- 1 苗床末期と春期の多湿時に発生が多い。
- 2 予防的散布が大切である。
- 3 QoI剤(1 1)は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 窒素質肥料の過用を避け、排水を良くする。
- 2 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 3 収穫適期を見定め、晴天が続いた後に収穫する。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ロブラール水和剤](#) 2 【1,000倍 14日／2回】
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) 1 1 【2,000倍 3日／3回】

白色疫病

留意事項

- 1 1～2月頃温暖で3～4月に冷涼多雨の場合に多発する。

防除方法

- 1 窒素質肥料の過用を避け、排水を良くする。
- 2 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 3 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [オーソサイド水和剤80](#) M 4 【600倍 7日／5回】

ネギアザミウマ

留意事項

- 1 高温少雨時に多発する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [ディアナSC](#) 5 【アザミウマ類 2,500~5,000倍 前日/2回】
- ・ [マラバッサ乳剤](#) 劇 1 B 1 A 【1,000倍 21日/3回】

シロイチモジヨトウ

留意事項

- 1 発生初期の防除を徹底する。
- 2 葉の内部へ潜り込む前に防除を行う。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [BT剤](#) 1 1 A (IX野菜類の病害虫 3野菜類 参照)

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。